

近日のニュースより

- ◆社会問題に目を向けよう。
- ◆話題になっていることの情報を正確につかもう。
- ◆勇気づけられることば、力のあることばに出会い、心に刻んでいこう。

I 「目の前の一歩一歩を積み重ねればどこまででも行けることを学んだ。」

● 「極地はマニュアルがなく、自分の能力を客観的に判断して試行錯誤しながら主体的に行動するのがおもしろい。」

冒険家 荻田泰永さん 1月6日 無補給単独歩行で南極点到達 日本人初

- ・南極点まで約1350キロを50日間、無補給単独歩行に挑んだ。
- ・荻田さんは、北海道出身。南極での冒険は今回が初。
- ・食料、燃料、テントなどを積んだ重さ100キロのそりを1人で引きながら歩いた。
- ・南極はこの時期の季節は夏。しかし、気温は、氷点下10～20度ほど。
- ・今後は、北極点への無補給単独踏破に挑戦したいと意気込みを語る。

II 第158回芥川賞 (平成29年下半年) 1月16日発表

『おらおらでひとりいぐも』 若竹 千佐子さん

- ・2年生の皆さんは、この書名に見覚えがあるはずです。
 - ・現代文の授業で現在学習している詩「永訣の朝」に出てくる、宮沢賢治の妹トシ子さんのことばです。(進度の関係でこれからのクラスもあると思います)。
 - ・石井さんは、63歳。岩手県遠野市出身。この作品は、石井さんのデビュー作。
 - ・63歳の受賞は、史上2番目に高齢。「何歳でも遅いということはない。いつでも始められるというのが実感です。」という談話が紹介されている。
 - ・題名は、郷土の作家、宮沢賢治の詩「永訣の朝」からつけられた。
 - ・東北弁と標準語を織り交ぜた小説。→ ?なぜ方言で表現するのか考えてみよう。
 - ・若竹さんは、「私は私で生きていく」と、賢治の詩(「私は私でひとりで死んでいきます」とは逆の意味で使ったそう)とは逆の意味で使ったそうだ。
- ★センター試験国語の第2問(小説)の作品には、芥川賞作家の作品が多くあります。

III 阪神・淡路大震災から23年 1月17日

★テーマ(課題)は「伝」

- ・追悼の集いでは、毎年、竹灯籠で文字を表現するが、今年、公募で最も多かったのがこの「伝」であったそう。
 - ・街が立ち直る一方、昨年12月には、追悼モニュメントに落書きの被害が発覚するなど、震災の記憶が社会から薄れていくことへの危機感も強くなっている。当時の経験や教訓をどのように伝え、生かし続けるか。
- ★「平成」はあと1年余り。「平成」とはどういう時代であったのか。
- ・その振り返りの中で、「震災」(阪神・淡路大震災、東日本大震災2011年、皆さんが入学して間もなく起きた2016年熊本地震など)は、必ず取り上げるべきものになります。

●小論文講演会 1月16日(火) 7限 講師:波多野洋司先生(学研アソシエ)



【講演会の内容】 70分

- ①小論文学習の意義
- ②採点基準
- ③答案のポイント・基本構成
- ④大学入試問題で問われる「思考力」とは
- ⑤要約の重要性とポイント
- ⑥課題型小論文の取り組み手順
- ⑦社会問題に関心を持つことの重要性



【振り返り、感想の紹介(抜粋)】

・小論文の深さを知りました。今まで小論では、「意見を書く」「理由を書く」「結論を書く」と単純作業でしたが、現代社会の問題と結びつけたり、資料から共通点・相違点を探ることが重要なのだわかりました。

・非常にためになりました。特に、要約のポイントは、国語や英語の長文読解の問題を読むときにも意識すれば理解がしやすくなりそうでよいと思いました。大学に入学してからもたくさんレポートを書かなければいけないとわかったので、今日聞いたことをしっかり身につけておきたいです。

・現代には私たちが思っている以上に課題がたくさんあるということに気付いた。その課題に普段から触れて、解決策を考えてみたり、考えをまとめたりすることが来年につながっていくことが分かった。

・時間を忘れるほど集中して聴き、学ぶことができる講演だった。なるほどと思ったり、気をつけようと思ったことなどたくさんあった。小論文のことだけでなく、要約やセンター試験についての話を聞くこともできたので、この講演を生かして頑張っていきたい。

・一番印象に残ったのは、「メディアスクラム」についてで、連日報道されているニュースが大切だというのではなく、それ以外にも目を向けて、本当に大事なことは何かを自分で見極めることが必要なのだわかりました。

・すごくためになりました。見られているのは、学校で教わることを覚えているかではなくて、それをどう活用できるかなのだわかりました。頭がいい人というのではなく、「賢い」人になりたいと思いました。こんなふうに文章を書くときに、今回教わったことを思い出すので、とても身にしみた気がします。今回配られた冊子は永久保存版になりました。

・社会人になっても活用できる内容ばかりだった。最後まで集中し聴くことができた。「情報収集は汗をかけ」という言葉が特に印象に残り、スマホに頼り切っている自分の情報収集を見直していきたいと思います。自分を見つめ直す時間になりました。